

【津奈木町小・中学校連携推進プロジェクト】

本プロジェクトは、津奈木町教育委員会を所管に、小・中学校の9年間を見通して、「豊かな心」の育成、「確かな学力」の育成に取り組んでいる。

(プロジェクトの内容と担当校、参加者)

名称(会場)	主な内容	参加者 ◎部長 ○事務局
心の教育プロジェクト (津奈木中)	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳教育研究推進事業 ・「考え、議論する道徳」の授業づくり ・「道徳科授業力向上手引書」の活用 ・地域教材「熊本の心」、地震関連教材「つなぐ」の活用の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ◎中学校長 ○中学校道徳教育推進教師 ○小学校道徳教育推進教師 ○小学校研究主任 ○中学校研究主任
学力向上プロジェクト (津奈木小)	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上(算数・数学) ・「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり ・10分間の定着時間 ・9年間を見通した学習規律、学習訓練 ・授業と家庭学習の連動、見取り 	<ul style="list-style-type: none"> ◎小学校長 ○小学校研究主任 ○中学校研究主任 ○小学校教務主任 ○中学校教務主任
体験活動プロジェクト (文化センター)	<ul style="list-style-type: none"> ○サラ玉の栽培と販売等 ○大根栽培とキャリア教育 ・体験活動とキャリア教育 ・地域人材の発掘・連携 ・活動の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ◎小学校教頭 ○中学校教頭 ○小・中学校地域学校協働活動推進員 (津奈木町農林水産課)

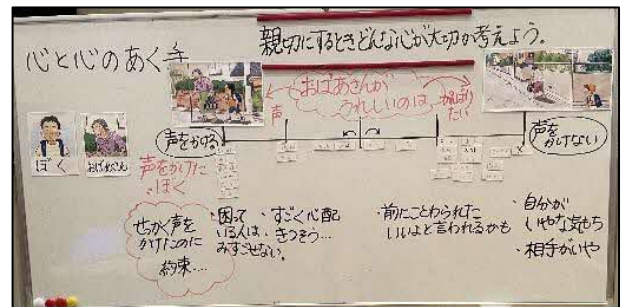
【視点1】小中連携による道徳教育の実践

心の教育プロジェクト会議



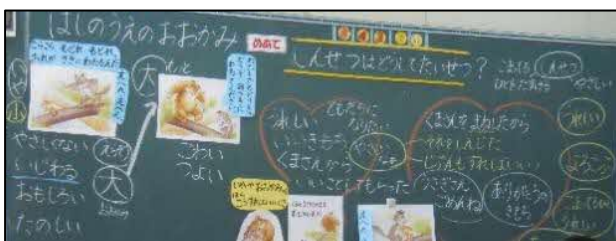
月に2回程度の会議で、共通実践事項についてなどの情報交換を行った。

①合同道徳研修会



講師招聘(スーパーティーチャー・指導主事)による道徳教育推進や授業づくりに関する研修の実施

②合同先進校視察



- ・佐賀県多久市立東原産舎西溪校
- ・甲佐町立龍野小学校
- ・菊陽町立菊陽中学校

③合同授業研究会



研究授業(小学3年・中学1年)後に、合同で授業研究会を行った。

【視点2】学習指導過程や指導方法の工夫

①体験活動等とつなげた導入・終末の工夫を行い、②「考え、議論する道徳」となる場（ハートつなぎタイム）を設定した授業を「つなぎスタイル」とする。

①体験活動とつなげた導入・終末

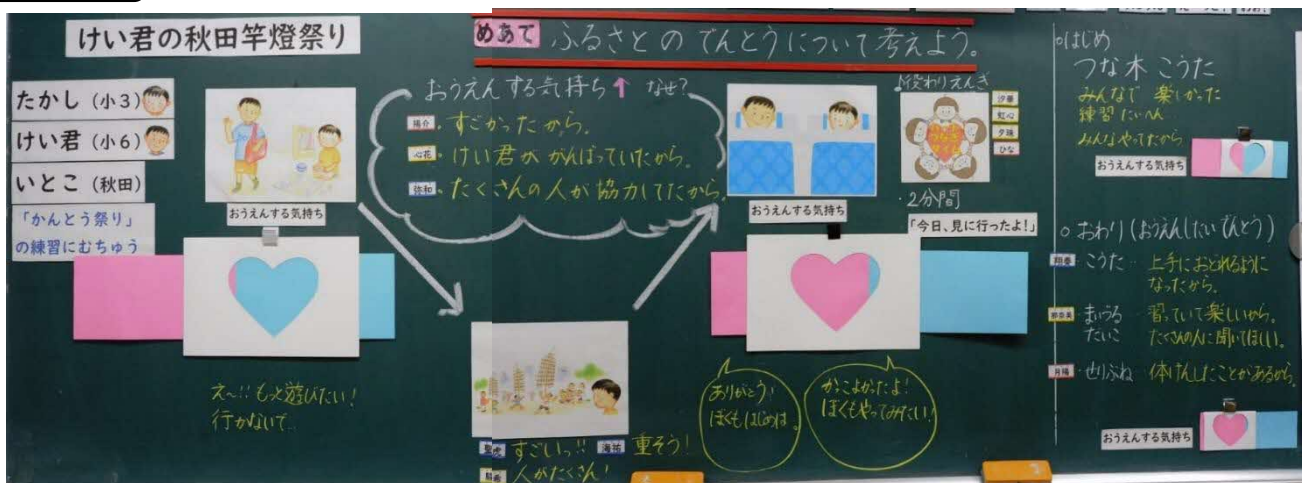
〈例〉小学校

主題名：でんとうを受けつぐ
 内容項目：C(16) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
 教材：「けい君の秋田竿燈まつり」（出典「新・みんなのどうとく3」（学研））
 ねらい：郷土の伝統や文化を受け継ぐために活動している人々の努力や思いについて話し合うことを通して、自分の町に残る伝統や文化を大切にするためにできることを見つけようとする気持ちを高める。

	つなぎスタイル	学習活動
導入	<p>○本時の道徳的価値への方向付けをする。</p> <p>○学習内容と自分をつなぐ動機付けをする。</p> <p>共通の体験活動を基に、教材と自分をつなぐ。</p> <p>○めあての設定をする。</p>	<p>○津奈木町で続いてきているものについて考える。</p> <p>○運動会で踊った「つなぎ小唄」の写真を提示し、津奈木町の伝統・文化と自身とのつながりがあるのだという意識をもたせる。</p> <p>○津奈木町の伝統に対する関心を心情メーターで表す。</p>
終末	<p>○体験活動とつなげて自己の振り返りをする。</p> <p>学んだことをこれからの生活につなぐ。</p>	<p>○自分の町の応援したい伝統について考える。児童とのつながりが予想されるものを中心に写真で紹介する。</p> <p>○津奈木町の伝統に対する関心を心情メーターで表し、導入時との変化を感じる。</p>



板書例



②「考え、議論する道徳」となる場(ハートつなぎタイム)の設定


〈例〉中学校

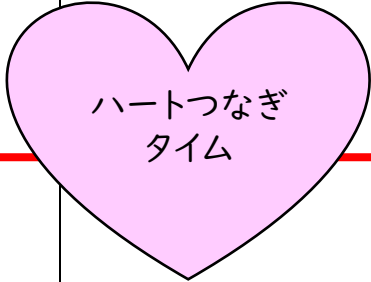
主題名:いのちを考える

内容項目:D(19) 生命の尊さ

教材:「決断!骨髄バンク移植第一号」(出典「新しい道徳I」(東京書籍))

ねらい:悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを考えることを通して、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

	つなぎスタイル	学習活動
展開	<p>○考えてほしいことを伝えてから読む。</p> <p>○中心発問の前の発問</p> <p>○中心発問を考える活動</p> <p>スケールを使って、自分の思いを明確にする。</p>	<p>○「田中さんの気持ちの変化を感じながら読んでみよう。」</p> <p>○「公衆電話の前で田中さんは何を思っているのだろう。」</p> <p>◎「あなたが田中さんと同じ立場になったとき、骨髄を提供しますか?断りますか?」</p> <p>・スケールを用いて、自分の考えを明確にする。</p>
		<p>【ハートつなぎタイムのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表す。場合によっては、思考ツール(スケール、心情メーター等)を活用する。 ・視点を持って友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする。 ・全体でそれぞれの考えを出し合い、自分の考えを再構築する。
	<p>○中心発問の後の発問</p>	<p>○「なぜ、田中さんは提供すると決心したのだろうか?」</p>




板書例

提供する・断る をスケールで表し、その理由を伝える。

【視点3】体験活動を基にした道徳教育の在り方

①体験活動を基にした道徳科の授業づくり

〈授業例〉中学1年

C(16) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度		道徳科
	学校・地域行事及び総合的な学習の時間	
10月	○総合「寒漬大根づくり」(種まき、間引き、草取)	○きらめいた「水前寺成趣園の水」 (「つなぐ」熊本県教育委員会) (10月実施) 地域への自分のかかわり方を考える場面で、地域の方々に思いを馳せたり、「つなぎふれあい祭り」への参加について考えさせたりする。
11月	○学校行事「キャリア・ガイダンス」 (地域の方々) ○地域行事「つなぎふれあい祭り」	
12月	○総合「寒漬大根づくり」	○ぼくのふるさと (「新しい道徳I」東京書籍) (12月実施) 自分のふるさとである津奈木町の特産品「寒漬大根」の体験学習を想起させ、ふるさとのために自分ができることを考えさせる。
1月		
2月	(収穫、樽漬け) (樽出し) (味付け、販売)	

②地域や行政との連携

学校行事や総合的な学習の時間(体験活動)において、行政(町役場農林水産課)が学校と地域(JA青壮年部、女性部の方など)の橋渡しをして、学校の体験活動を支えている。

○サラダ玉ねぎづくり<小学校>



○寒漬大根づくり<中学校>



手書きメッセージを添えて、5kgずつ箱詰・出荷

JA青壮年部、女性部の方と一緒に大根の種まき

【今年度を振り返って】

- 今回、研究指定を受けたことで、町教育委員会を所管とする小・中連携推進プロジェクトが立ち上がった。職員からは、「道徳科の授業をはじめ、様々なことを小中で統一して取り組むことができるようになった」等の意見があり、これまで以上に小中連携をスムーズに行うことができるようになった。
- 体験活動を取り入れた道徳科の授業を展開したことで、児童生徒からは、「教材について考えている時、体験活動が浮かんできて考えやすくなった」等の意見があり、自分の体験と重ねて考える姿が見られるようになった。

【次年度に向けて】

- 体験活動を基にした授業をさらに充実させるために、小・中学校で年間指導計画について再度検討する必要がある。
- 小学校で行った体験活動を中学校でも授業に活用することができるように連携を深めていきたい。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「つなぎスタイル」やローテーション授業を充実するとともに、小中合同の研修会や授業参観を計画していきたい。